

平成28年度  
音声教材普及推進会議  
事例発表

**読むことが困難な児童への指導**

神奈川県厚木市立厚木小学校  
通級指導教室「ことばの教室」  
三橋 雅子

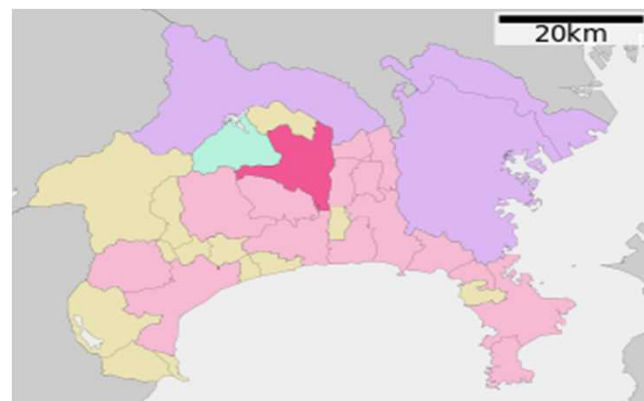
# 厚木市立厚木小学校

- ・本厚木駅から徒歩15分
- ・明治4年、厚木小学校の前身である「成思館」設置
- ・明治19年、厚木小学校に改称

・**学校教育目標**  
豊かな人間性をもち、  
たくましく生きる児童の育成

～子供の笑顔が  
あふれる学校～

- ・児童数 963名
- ・普通学級 29
- ・特別支援学級 6  
(H28. 7. 1現在)



## 厚木市 通級指導教室「ことばの教室」

- 厚木市内5校に設置
- 通級児童数 189名(自校通級 97名・他校通級 92名)

平成28年7月15日現在

- **厚木小 通級児童数 57名**

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
自校通級	2	5	10	5	8	4	34
担当児童		(1)	1	1	2	1	5
他校通級	5	4	5	2	2	5	23
担当児童	1	2	3		1		7

**読み書きが困難な児童 3名(自校通級)**

## 音声教材BEAMとの出会い ～ 使えるようになるまで

- 1 音声教材を知る。
- 2 学校長に話をする。
- 3 職場で「音声教材BEAM」の申請を試みる。
- 4 厚木市教育委員会 学校教育部 教育研究所から申請してもらおう。
- 5 学校のパソコンにダウンロードする。

# 対象児童 C児

- URAWSS <読み課題> 【H28.4実施】

※スライドをご覧ください

- 文字を見たくない。自分で読んでもよくわからない。  
読んでもらった方が簡単。

→音声教材BEAMが有効と思われる。

## 昨年度の「ことばの教室」での様子

- 漢字スキルから覚える漢字を決めて、読む練習をする。
- 自分の名前を漢字で書けるように、1字ずつ練習した。
- 時間があるときは、かけ算九九の四の段を唱える練習をした。
- 出かけたことなどは、思い出して楽しそうに話すことができた。
- 漢字や九九など、「ことばの教室」で練習すると、家でも自分から取り組んでいたこともあった。

# C児への音声教材を使った指導

## ○ねらい

- 音声教材BEAMを聞き、書かれていることについて指導者とやりとりをすることを通して、内容を理解することができるようにする。
- 「聞けばわかる」という体験を積み重ねることで、安心して授業に参加できるようにする。

## ○方法

- 学級で学習する前に、教科書の文章(主に物語文や説明文)を聞かせる。
- 文章が長い場合は、場面や段落で区切って聞かせる。
- 1回10分程度行う。

# <音声教材を使った指導>

◆1回目 平成28年5月6日金曜日 第3校時

- ①国語(光村図書)四年上「大きな力を出す」を  
音声教材BEAMを使って、音だけで聞かせる。
- ②聞いた後、耳に残った言葉をたずねる。
- ③「息をどうする時に一番大きい力が出せるか」  
に気を付けて聞くように言って、もう一度聞か  
せる。
- ④聞き終わった後、いくつか質問する。
- ⑤教科書の文字を見ながらもう一度音声を聞く。



- ◆2回目 平成28年6月3日金曜日 第3校時
- ①国語(光村図書)四年上「一つの花」の1場面だけを音声教材BEAMを使って、音だけで聞かせる。
- ②耳に残った言葉をたずねる。
- ③「いつ、だれがでてきたか」をたずねる。
- ④「そのころは、どんな様子だったか」に気を付けて聞くように言って、もう一度聞かせる。
- ⑤そのころの様子をたずねる。

- ◆3回目 6月10日金曜日 第3校時  
国語(光村図書)四年上「一つの花」の2・3場面
  
- ◆4回目 6月14日火曜日 第1校時  
「一つの花」の4場面
  
- ◆5回目 6月24日金曜日 第3校時  
「かげ」94～97ページ3行目まで  
音声教材BEAMで聞かせたり、担当が読んで聞かせたりする。
  
- ◆6回目 7月6日水曜日 第5校時  
詩「忘れもの」

# 音声教材BEAMを使って

## <C児への聞き取りから>

- ・どんな話か、内容がわかった。
- ・話の内容がわかって安心した。
- ・家でも聞いてみたいと思った。



「3DSで音楽が聞けるよ。」

「SDカードがあるよ。」



「夏休みに家で聞いてみてね。」

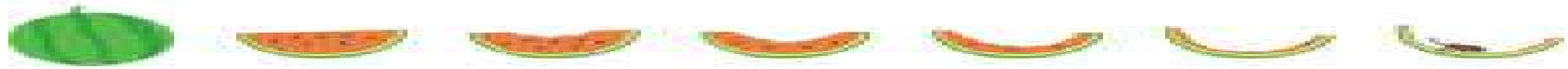


# 音声教材BEAMを使って

## ＜保護者への聞き取りから

（8月初めの家庭での様子）＞

- ・ 3DSで聞いている。聞くだけなので、苦にならないようである。
- ・ 音が小さい。音量を最大にして、普通に聞けるくらいの大きさにしかならない。



# 音声教材BEAMを使って



## <担任への聞き取りから>

BEAMで聞いた文章は...

- ・つかえながらも自分で音読できることが多かった。
- ・テストでは、自分でできそうな問題に意欲的に取り組んだ。

# 1学期を終えて C児の指導について

- 音声教材BEAMを聞き、書かれていることについて指導者とやりとりをすることで、大まかに内容を捉えることができていた。
- 今後も継続して音声教材を使用し、「聞けばわかる」という体験を積み重ねることで、自分に合ったやり方を受け入れ、自己肯定感を高めることができるのではないかと。
- 週一回の通級指導の中だけでは、事前に十分聞かせることがむずかしい。

# 今後の指導に向けて

## <C児への指導について>

- ・家庭や担任との連携



## <読むことが困難な児童への指導について>

- ・個々の児童に合ったものを探っていく

## <音声教材について>

- ・広く知られるように
- ・使いやすく

自分だけが特別な方法で学習することへの  
抵抗感...

基礎的な環境整備として、自分に合ったものや  
合ったやり方を選ぶことが、特別ではなく当たり  
前になること

